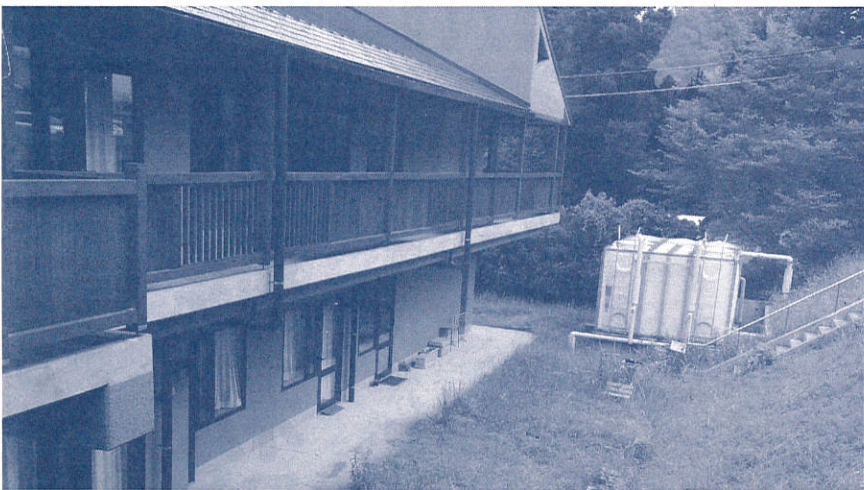


7月19～20日、千葉県を会場に開催された「全国市民政治ネットワーク交流集会2014」。2日目の現地視察ツアーでは、千葉県の社会福祉法人生活クラブ（通称：生活クラブ「風の村」）が運営する特養ホームや介護施設など一連の福祉事業を八街と稲毛に視察した。一方、社会福祉法人生活クラブの母体である生活クラブ生活協同組合千葉も2011年4月より「生活クラブ虹の街」と名乗って、当初からの生活協同組合運動である食や環境問題などの課題解決を担っており、福祉を担う「風の村」との連携で豊かな地域社会づくりを担っている。

東京・生活者ネットワーク都議会議員[杉並区] ●小松 久子



丘陵地にある、千葉県八街市の特別養護老人ホーム「風の村」の外観。木材を多用しているのが特徴



くらしと福祉の複合拠点「生活クラブいなげビレッジ虹と風」。千葉市稲毛区

全国初！全室個室ユニットの特養ホーム「風の村」福祉力を生協組合員らが担う

社会福祉法人生活クラブ「風の村」は、千葉県流山市、柏市、佐倉市、我孫子市……など県内各地で事業展開しているが、2000年、同法人初の特別養護老人ホームとして開設したのがこの八街の施設であった（生活者通信 No.146 参照）。

ここ「風の村」は、全国初の全室個室ユニットの特養ホームとして知られるが、私はオープン間もないころに見学に訪れた

次に訪れた「生活クラブいなげビレッジ虹と風」は、2011年、UR団地の老朽化にともなう再生事業に「風の村」が手を挙げ、生活クラブ生協千葉（通称：生活クラブ「虹の街」）などと一緒に開設した。

「虹の街」は生協の店舗営業と集会所の提供・管理を、「風の村」はサービス付き高齢者住宅、デイサービス、ショートステイ、訪問看護ステーション、診療所などのほか、障がい児デイサービスを設置している。さらに福祉用具を扱う「（株）生活サポートクラブ」、レストラン経営や食の宅配を行う「ワーカーズ・コレクティブSan」、相談事業などを担う「VAICコミュニティケア研究所」が事業を展開し、福祉のまちづくりの実践モデルとして「くらしと福祉の複合拠点」を形成していた。

さらに特筆すべきは、ここですすめられている「ユニバーサル就労」だ。働きたいのに働けにくいすべての人が対象という、価値ある取り組みだ。引きこもりの人も二つとも障がいがあっても、ここではさまざまな側面から支援を受け現在約70人が就労し、その半数以上は最低賃金を保障された職員である。

市民生活の向上を目的におく生協運動とともに活動母体とする市民政治ネットワーク。その仲間たちの「福祉力」に励まされ力づけられた視察となった。

市民がつくる福祉のまち「風の村」「虹の街」

全国市民政治ネットワーク全国交流集会・福祉ツアーから

生活と政治をつなぐ情報紙 生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.277

2014.10.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

■発行 東京・生活者ネットワーク
■〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274
■Eメール tokyo@seikatsusha.net
■ホームページ <http://www.seikatsusha.me>
■発行責任者 西崎光子
■定価 年間1000円・1部100円
■郵便振替口座 00130-3-18417

都 2013年度各会計決算特別委員会および公営企業会計決算特別委員会を開催。

ネット●練馬 電磁波学習会 10月18日(土) 14:00～16:00 石神井公園区民交流センター2階会議室 講師：上田昌文さん(NPO法人市民科学研究所) 資料代300円
●東京 脱原発セミナー「原発コストと電気料金—エネルギー転換に向けて」10月18日(土) 18:30～20:30 主婦会館プラザエフ8階スイセン おはなし：大島堅一さん(立命館大学教授) 参加費1000円
●江戸川 受ける？ 受けない？～山田真さんに聞く予防接種のはなし 10月19日(日) 10:30～12:30 タワーホール船堀303会議室 参加費500円 定員50名 主催：運動グループ江戸川地域協議会
●東京 2015政策発表集会 10月25日(土) 13:30～16:00 ペルサル西新宿1階ホール 基調講演：福嶋浩彦さん(元我孫子市長/中央学院大学教授)
●府中 どうして？ どうする？ 女性の貧困 10月25日(土) 13:30～15:30 府中市スクエア21・女性センター会議室 講師：大矢さよ子さん(社会保険労務士) 主催：府中市男女共同参画市民企画講座
●江戸川 荒川クリーンエイド&小松川自然体アダプト活動 11月9日(日) 10:00～12:30 集合場所：小松川千本桜公園パーベキュー場付近

あんでな

関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会

矢野恭子

大きな荒川が人工の川だと教えても、子どもたちは信じなかった。そのため、小学校教員だった故・絹田幸恵は放水路開削の歴史を聞いて歩いた。かつてあった旧四ツ木橋あたりに来たとき、地元のお年寄りたちから関東大震災(1923年)の時にはここでも朝鮮人虐殺があったと聞かされた。

民衆も殺害したが、軍隊も来て機関銃で撃ったという。犠牲者を埋める穴を掘らされた人もいた。絹田の呼びかけで1982年に追悼する会が発足し、試掘では遺骨は出なかったがさらにおおぜいのお年寄りが証言を始めた。立教大学

の山田昭次教授の下で文献資料も調べ、震災の年の11月半ばに2度にわたって一帯を封鎖し、憲兵や警察が遺骨をどこかに持ち去ったこともわかった。調査と追悼の記録は、『風よ 鳳仙花の歌をはこべ』(教育史料出版会)にまとめた。

毎年、荒川河川敷で韓国・朝鮮人犠牲者追悼式を行い、33回目の今年は250名の参加で行われた。ふだんは何のよすがもない河川敷だ。要望に応え、1991年に追悼碑建立を目標にした、社会教育団体「ほうせんか」をつくり、墨田区の国際交流などの活動にも参加して理解者が増えた。

地元の方が店の場所を譲ってくれ、日本人も韓国人朝鮮人も協力してチャリティコンサートなどを開いて2009年に旧四ツ木橋に近い堤防下に追悼碑を建てた(墨田区八広6-31-8)。今、「ほうせんか」は一般社団法人として、追悼碑の維持管理を行っている(<http://moon.ap.teacup.com/housenka/>)。

housenka/。

市民立の追悼碑は、差別と暴力のない、多民族がともに幸せに暮らせる日本社会でなければ守れない。

ぜひ追悼事業にご協力ください。

【代表】



(左) 9月6日、第33回目となる韓国・朝鮮人犠牲者追悼式が開催された。かつて東京のと真ん中で繰り広げられた惨虐の場の一つ、荒川河川敷(京成八広駅徒歩)に集まった参加者。今年は伯父が震災後、群馬から東京に向かったまま行方不明となった韓国人遺族のほか、来日した中国人遺族も追悼式後のプンムルの輪に加わった
(右) 2009年に建立された「関東大震災時 韓国・朝鮮人殉難者追悼之碑」